国土交通省 関東地方整備局
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Kanto Regional Development Bureau

YAMANASHI

令和４年９月16日（金）
国土交通省関東地方整備局
甲府河川国道事務所
山梨県

記者発表資料

E52

中部横断自動車道 山梨～静岡間 全線開通１年後の整備効果

中部横断自動車道（R3.8.29）開通後の整備効果

- 東名・新東名や中央道が中部横断道で結ばれ、広域な地域間流動が増加
- 中部横断道沿線企業の他県との取引企業数が増加するなど、地域産業が活性化

１．中部横断道の交通量の変化

○全線開通直前と比較して、交通量が最大**約3倍に増加**

２．交通流動の変化

○中部横断道が全線開通後、**中部横断道を連続利用する車両が約1.7倍に増加**

○国道52号の**事前通行規制区間を迂回可能**になるとともに、**東京圏と中京圏間の走行経路数が増加**することで、災害時等の通行止め時のリダンダンシーを確保

３．地域産業の活性化

○中部横断道沿線の製造業と他県との**取引企業数が約1割増加**し、**売上高が約4割増加**

４．清水港を活用した輸出の促進

○清水港や卸売市場の物流施設の整備が進み、**山梨・長野産農産物の輸出拡大が期待**

○中部横断道沿線に立地した物流センターにより、**医療用機器の輸出拡大が期待**

５．観光の活性化

○全線開通により**峡南地域への来訪者数が大幅に増加**

６．救急医療支援の向上

○中部横断道の開通により、**重篤患者に対する救急医療や周産期医療を支援**

発表記者クラブ

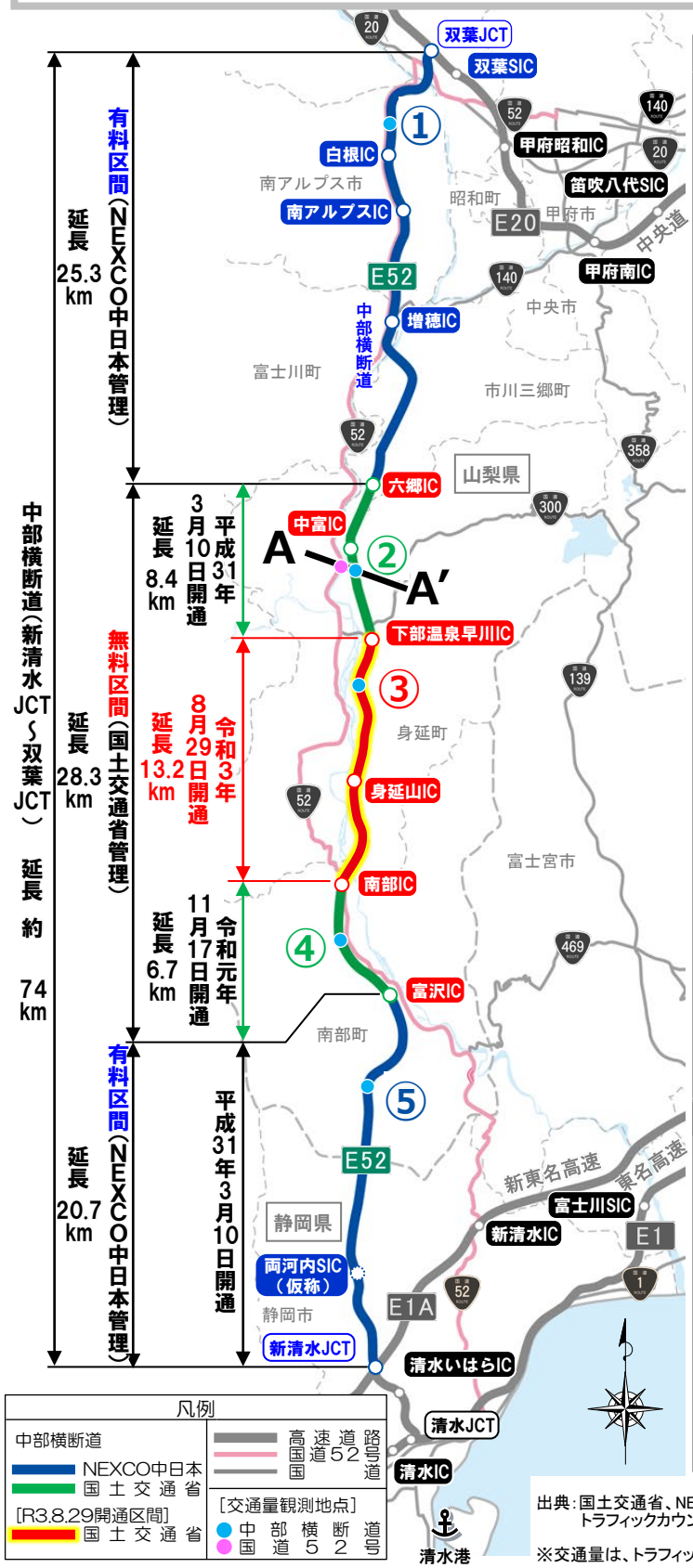
竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、山梨県政記者クラブ、静岡県政記者クラブ、静岡県社会部記者会

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 甲府河川国道事務所　　電話 055-252-5491
副所長(改築)　本住 武司（ﾓﾄｽﾞﾐ ﾀｹｼ）　計画課長　三森 基裕（ﾐﾂﾓﾘ ﾓﾄﾋﾛ）
山梨県 高速道路推進課　　電話 055-223-1690
課長　壷屋 嘉彦（ﾂﾎﾞﾔ ﾖｼﾋｺ）

1. 中部横断道の交通量の変化 ①平日・全車

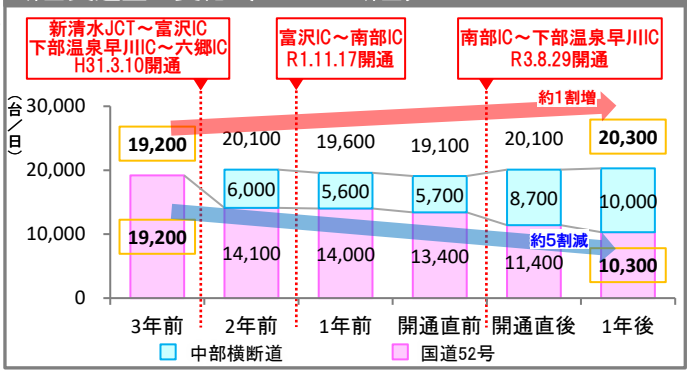
○令和３年８月に開通した**身延山IC～下部温泉早川IC**(③) の交通量は、**9,200台/日**。（平日全車）
○中部横断道（新清水JCT～双葉JCT）の全線開通により、中部横断道の交通量は、開通直前と比べて**最大約3倍に増加**(3,000台/日→8,300台/日)。（平日全車）
○**並行する国道52号**の交通量は、新清水JCT～六郷IC間の開通前と比べ、**約5割減少**(19,200台/日→10,300台/日)。（平日全車）
○中部横断道と国道52号を合計した**断面交通量**は、新清水JCT～六郷IC間の開通前と比べ、**約1割増加**(19,200台/日→20,300台/日) 。（平日全車）



凡例
中部横断道
NEXCO中日本
国土交通省
[R3.8.29開通区間]
国土交通省
高速道路
国道52号
国道
[交通量観測地点]
中部横断道
国道52号

中部横断道の交通量変化

断面交通量の変化（A－A’断面）



出典：国土交通省、NEXCO中日本 トラフィックカウンターデータ（速報値）

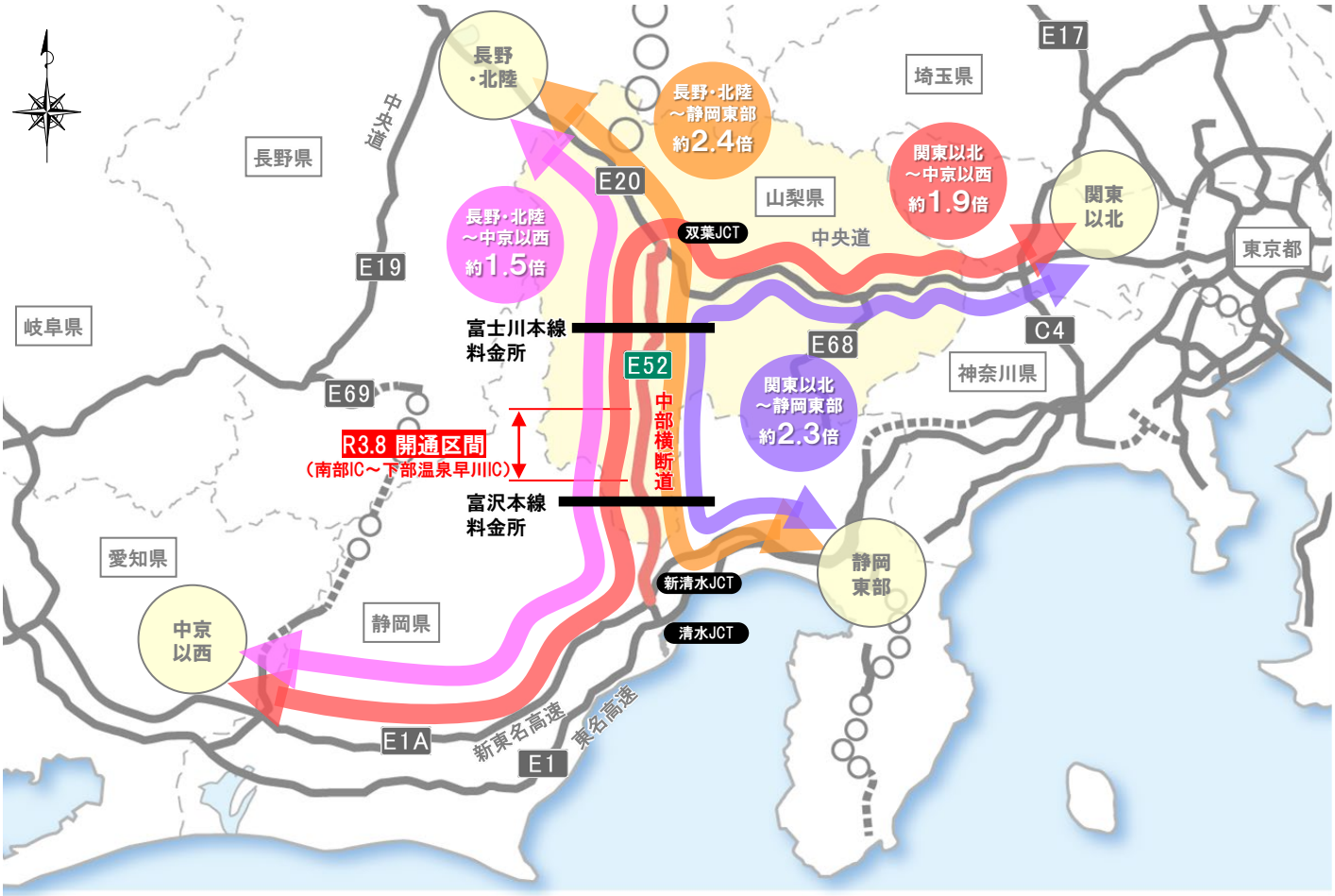
3年前：H30.9.18(火)～21(金)　開通直前：R3.7.12(月)～16(金)
2年前：R1.9.17(火)～20(金)　開通直後：R3.9.13(月)～17(金)
1年前：R2.9.14(月)～18(金)　1年後　：R4.8.1（月)～5(金)

※交通量は、トラフィックカウンターの計測値から有効数字2桁（1万台以上は3桁）で丸めた値

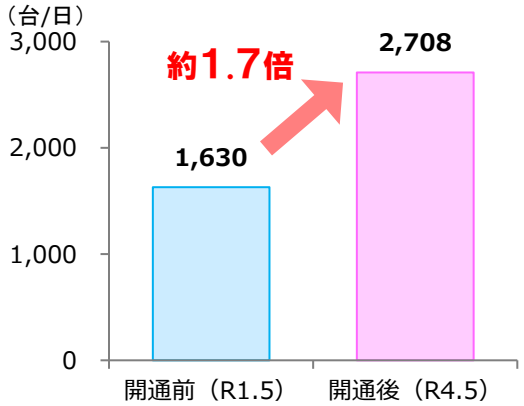
2. 交通流動の変化 ①東名・新東名・中央道と連携した広域流動の増加

○中部横断道の全線開通後、**中部横断道を連続利用する車両**※が**約1.7倍に増加**。
○中部横断道を挟んで、長野・北陸～静岡東部の車両台数が約2.4倍、関東以北～中京以西の車両台数が約1.9倍に増加するなど、中部横断道を活用した広域な地域間流動が形成。

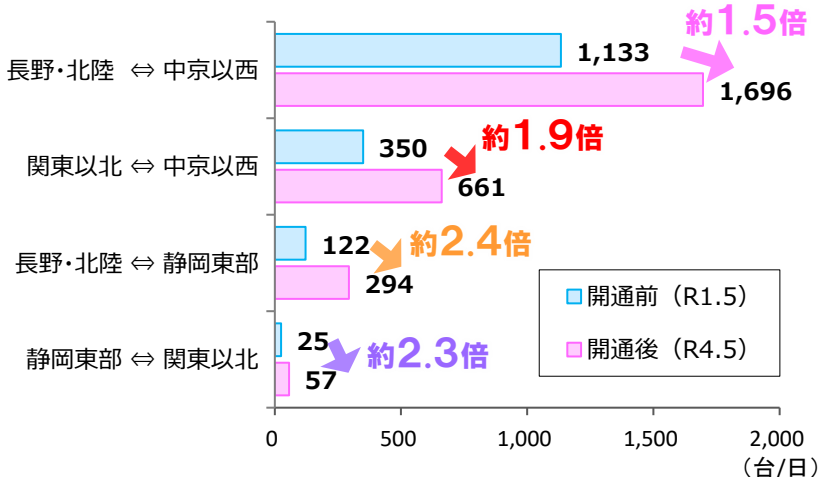
■広域な地域間流動の変化（中部横断道を連続利用する車両※）



■開通区間を通過する車両台数の変化
（中部横断道を連続利用する車両※）



■発着地域別車両台数の変化
（中部横断道を連続利用する車両※）



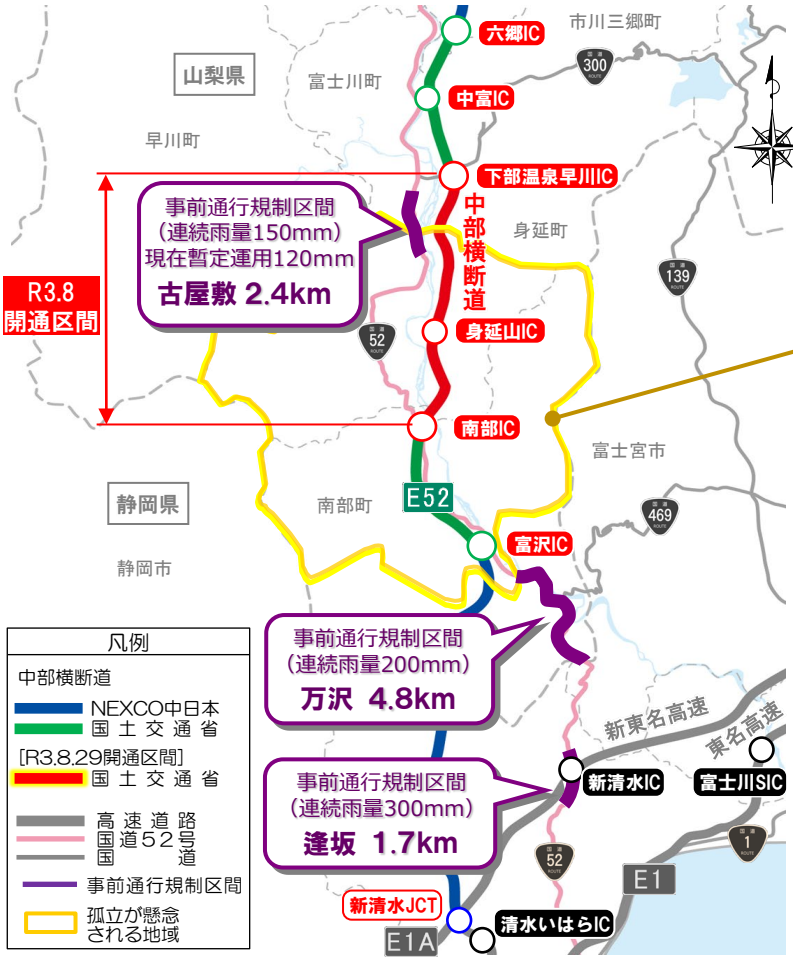
出典：NEXCO中日本ETCログデータ（ 開通前：R1.5、開通後：R4.5 ）
※連続利用する車両は、ETCを利用した車両のうち富沢本線料金所と富士川本線料金所を80分以内に 連続して利用した車両を集計
（ETC2.0プローブデータから算出した旅行速度で国道52号等の移動にかかる時間約50分に休憩時間相当の30分を加えた時間）

【発着地域の分類】
長野・北陸　：双葉JCT以西
関東以北　：双葉JCT以東
中京以西　：新清水JCT・清水JCT以西、静岡東部…新清水JCT・清水JCT以東

2. 交通流動の変化　②災害時の代替路として機能

○中部横断道が通過する地域は、地形や地質等の特性から事前通行規制区間が3箇所存在しており、過去には大雨により度々通行規制が発生。
○これらの区間が通行止めになったとしても、**中部横断道を利用した事前通行規制区間の迂回が可能**となることで、孤立集落の発生を回避。
○広域ネットワークにおいても、**東京圏と中京圏間の走行経路が９通りから15通りに増加**することで、災害時等の通行止め時のリダンダンシーを確保。

■国道52号　事前通行規制区間



■国道52号の雨・災害による通行規制履歴（H24～R3年度）

規制区間名	規制回数	のべ規制時間
万沢	7回	65時間30分
古屋敷	5回	148時間25分

「古屋敷」と「万沢」が同時に通行止めになった場合、孤立が懸念される人口

約9，800人

出典：R2国勢調査より算出

「古屋敷」と「万沢」が通行止めになったとしても、中部横断道を利用した迂回が可能

孤立集落の発生を回避

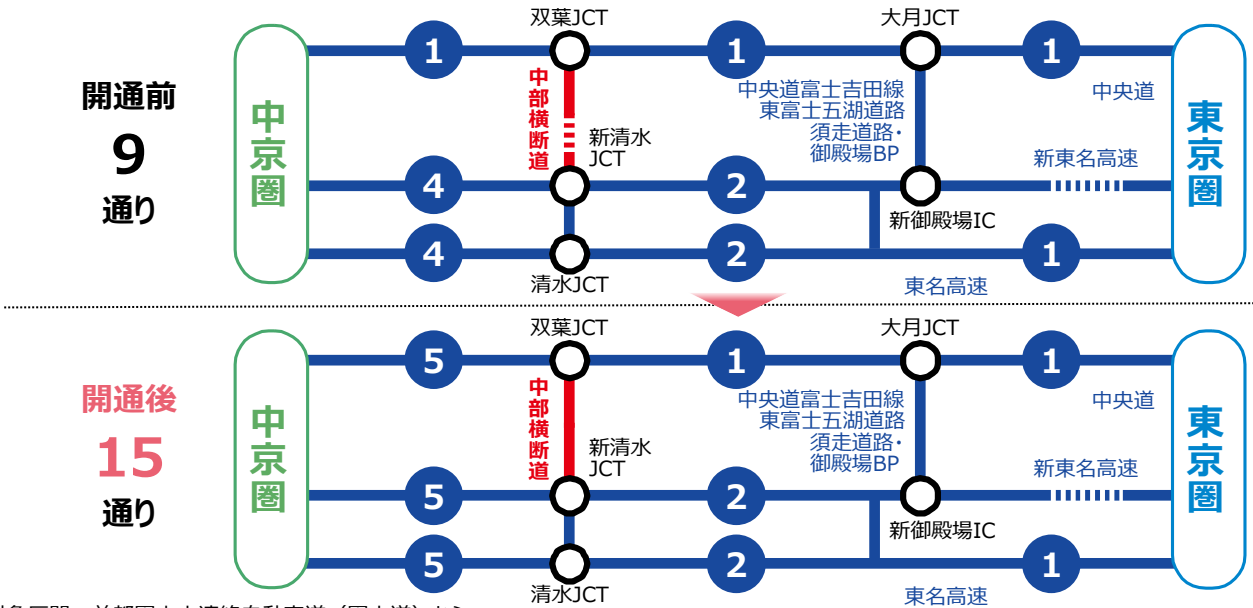
■国道52号（万沢）

R1.5.21に"万沢区間"で事前通行規制（規制時間:4時間）

■中部横断道（富沢IC）

その間、中部横断道が代替道路として機能

■東京圏から中京圏への走行経路の増加

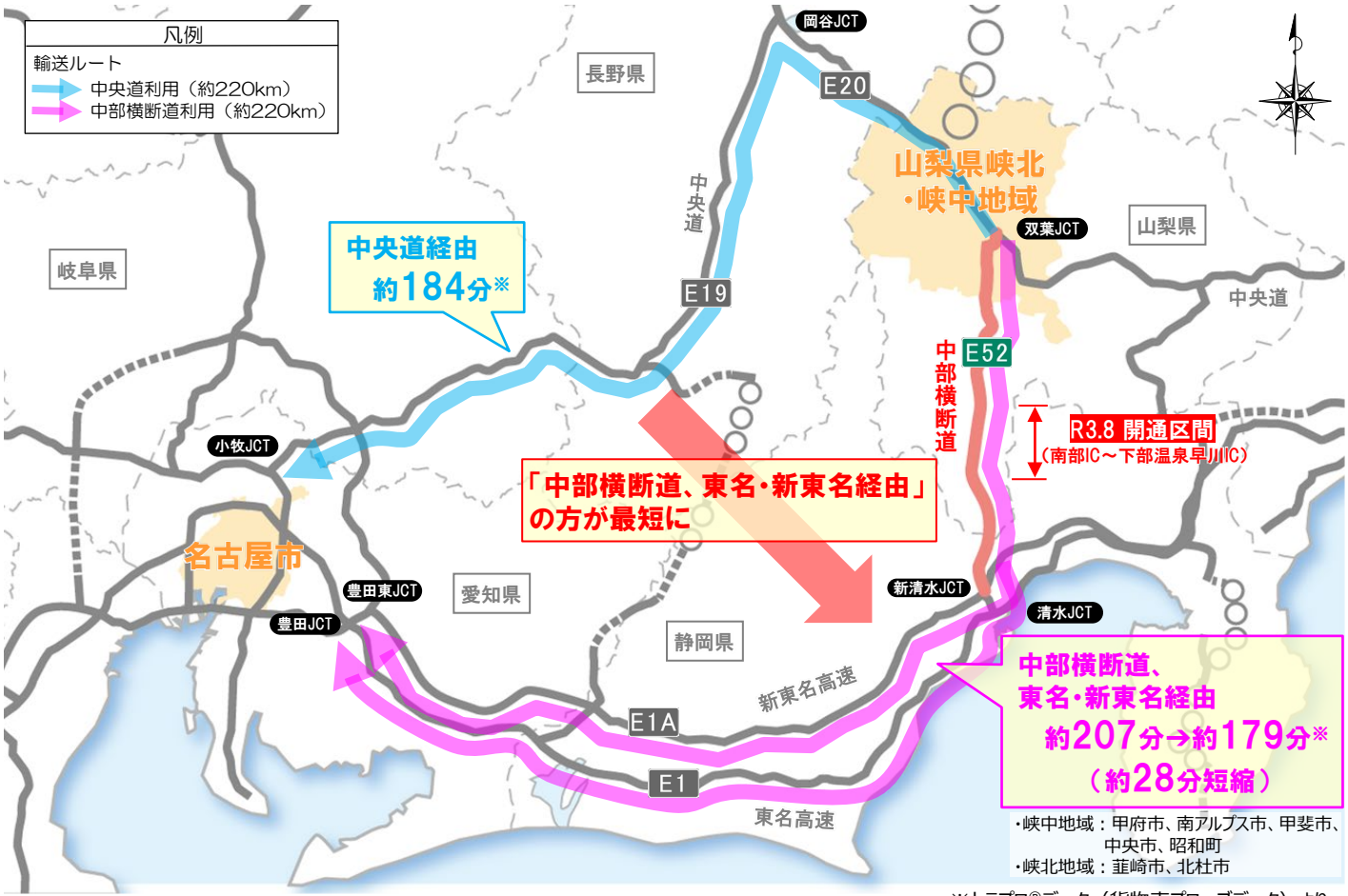


対象区間：首都圏中央連絡自動車道（圏央道）から三遠南信道路まで（中央道・新東名高速・東名高速利用）

2. 交通流動の変化　③山梨県内から中京方面への輸送効率化に寄与

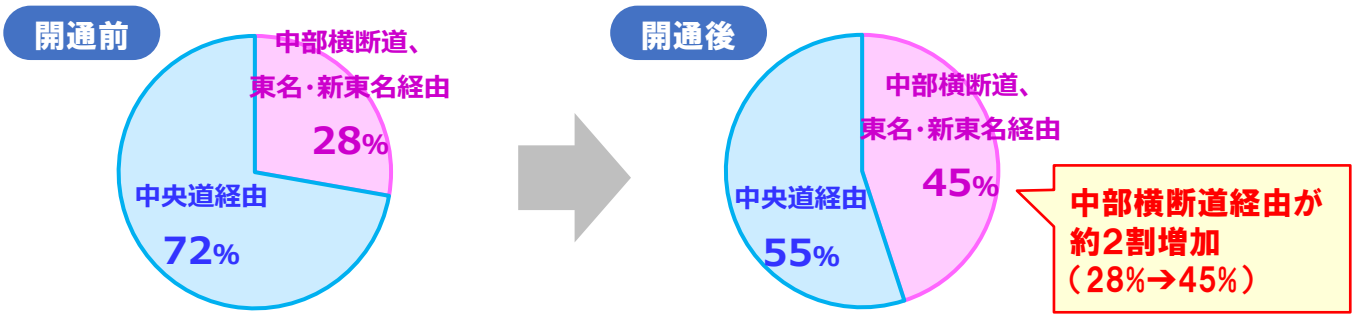
○中部横断道の開通により、**山梨県峡北・峡中地域から名古屋市までの所要時間が約28分短縮し**、「中央道経由」よりも**「中部横断道、東名・新東名経由」の方が最短に**。
○山梨県峡北・峡中地域～名古屋市間の輸送における中部横断道の利用割合が、**約２割増加**（28%➔45%）。
○山梨県内から中京方面へのアクセス性が向上し、輸送効率化に寄与。

■山梨県峡北・峡中地域から名古屋市への輸送ルート



※トラプロ®データ（貨物車プローブデータ）より算出した昼間12時間旅行速度により算出

■輸送ルートの分担率の変化（山梨県峡北・峡中地域～名古屋市）



出典：トラプロ®データ（貨物車プローブデータ）開通前：H29.9～H30.6　開通後：R3.9～R4.6

■　食品製造業者（山梨県甲府市）の声

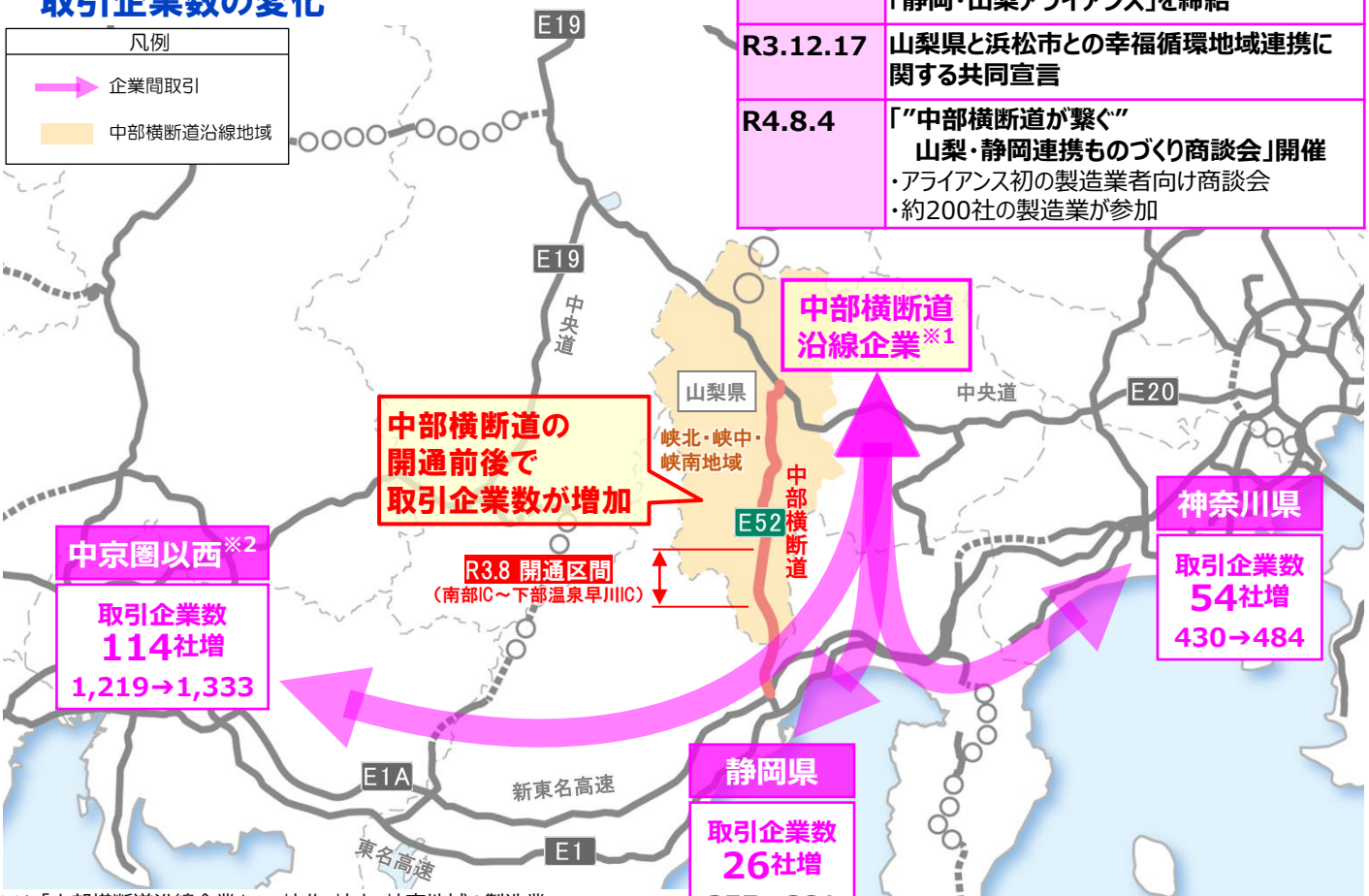
- 山梨県内の工場から、ケーキなどの商品を全国に向けて出荷しています。中京・関西方面へは毎日20～30台のトラックで輸送しています。
- 中部横断道の開通により、出荷ルートを中央道経由から中部横断道・新東名高速に変更し、中京・関西方面への輸送時間が約30分短縮しました。
- 中央道に比べ、中部横断道や新東名高速はカーブが少なく、デリケートな商品を運んでいるドライバーへの負担が軽減されました。

（R4.6　企業ヒアリング結果）

3. 地域産業の活性化　①企業間取引の拡大

○山梨中央銀行と静岡銀行は、 R2年に、両行の取引先企業の販路拡大等などを目指す業務提携を締結。R4年には、静岡・山梨両県の地元企業の新たな取引先を求める商談会を開催。
○中部横断道沿線企業は、中部横断道の開通前後で**取引企業数・従業者数が約1割増加**するとともに、**売上高が約4割増加**し、経済活動が活性化。

■中部横断道沿線企業※1と神奈川県・静岡県・中京圏以西の取引企業数の変化



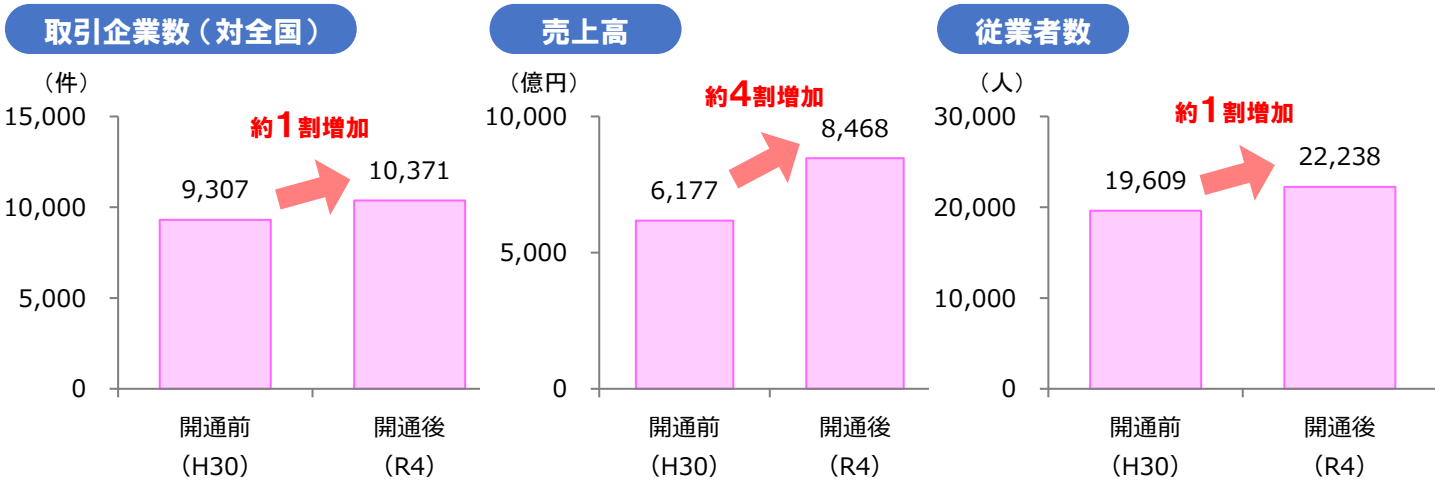
※1「中部横断道沿線企業」… 峡北・峡中・峡南地域の製造業。
峡北・峡中・峡南地域　甲府市、韮崎市、南アルプス市、北杜市、甲斐市、中央市、市川三郷町、早川町、身延町、南部町、富士川町、昭和町
※2「中京圏以西」… 中京圏（愛知県・岐阜県・三重県）、近畿地方、中国地方、四国地方、九州地方

■山梨県と静岡県の地域間連携

R2.10.28	山梨中央銀行と静岡銀行で包括業務提携「静岡・山梨アライアンス」を締結
R3.12.17	山梨県と浜松市との幸福循環地域連携に関する共同宣言
R4.8.4	「"中部横断道が繋ぐ" 山梨・静岡連携ものづくり商談会」開催 ・アライアンス初の製造業者向け商談会 ・約200社の製造業が参加

出典：企業間取引データ（株式会社　帝国データバンク）
開通前：H30.6時点、開通後：R4.6時点

■中部横断道沿線企業※1の取引企業数・売上高・従業者数の変化



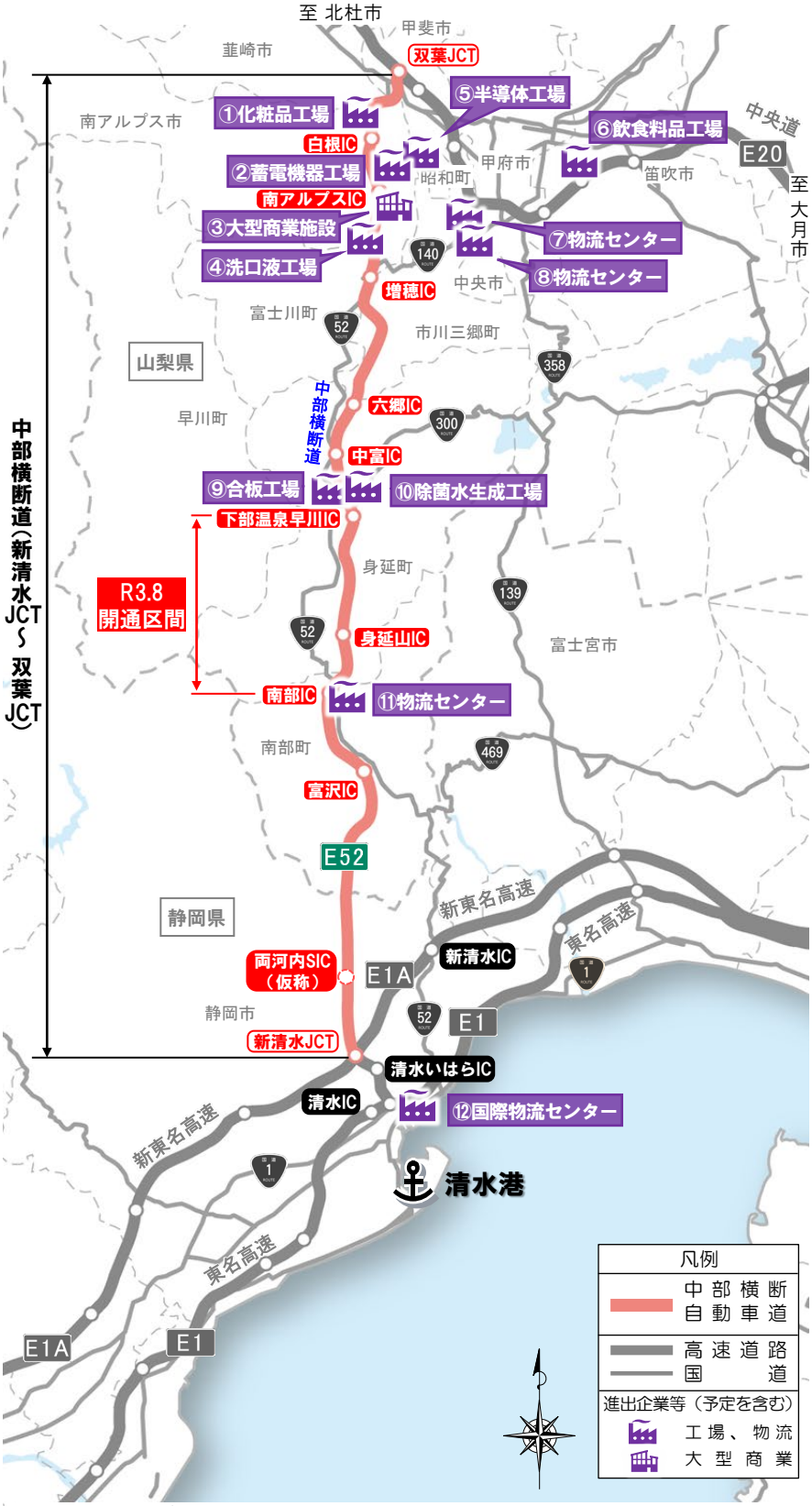
出典：企業間取引データ（ 株式会社　帝国データバンク）
開通前：H30.6時点、開通後：R4.6時点

3. 地域産業の活性化　②工場等立地の増加

○中部横断道の沿線では、高速道路への良好なアクセス性から、**企業立地が増加**。地域の雇用創出に貢献。

○山梨～静岡間の全線開通により、**更なる企業立地の計画**があり、それによる地域の雇用創出、地域の産業振興への貢献が期待。

■中部横断道及び周辺高速道路※のIC付近における工場等の近年の立地状況



NO	業種等	所在地	操業・開設時期
①	化粧品工場	南アルプス市	R6予定
②	蓄電機器工場	南アルプス市	未定
③	大型商業施設	南アルプス市	R6予定
④	洗口液工場	南アルプス市	R3
⑤	半導体工場	甲斐市	R6予定
⑥	飲食料品工場	笛吹市	R6予定
⑦	物流センター	中央市	R4
⑧	物流センター	中央市	R2
⑨	合板工場	身延町	R1
⑩	除菌水生成工場	身延町	R2
⑪	物流センター	南部町	R3
⑫	国際物流センター	静岡市	R2

出典：新聞各紙、各社HP及び発表資料（R4.8時点）

写真提供：洗口液工場

※「中部横断道及び周辺高速道路」…中部横断道、新東名高速清水連絡路、中央道（笛吹八代SIC～双葉JCT）

■進出企業の声

- 製品を国内各所へ出荷する際に物流コスト低減が期待できる場所として、アクセス性の良い山梨県の中部横断道沿線に新工場を開設しました。
- 従業者の半数以上を、山梨県内から新たに採用しました。今後も地元雇用を増やし、地域活性化にも貢献していきたいと考えています。

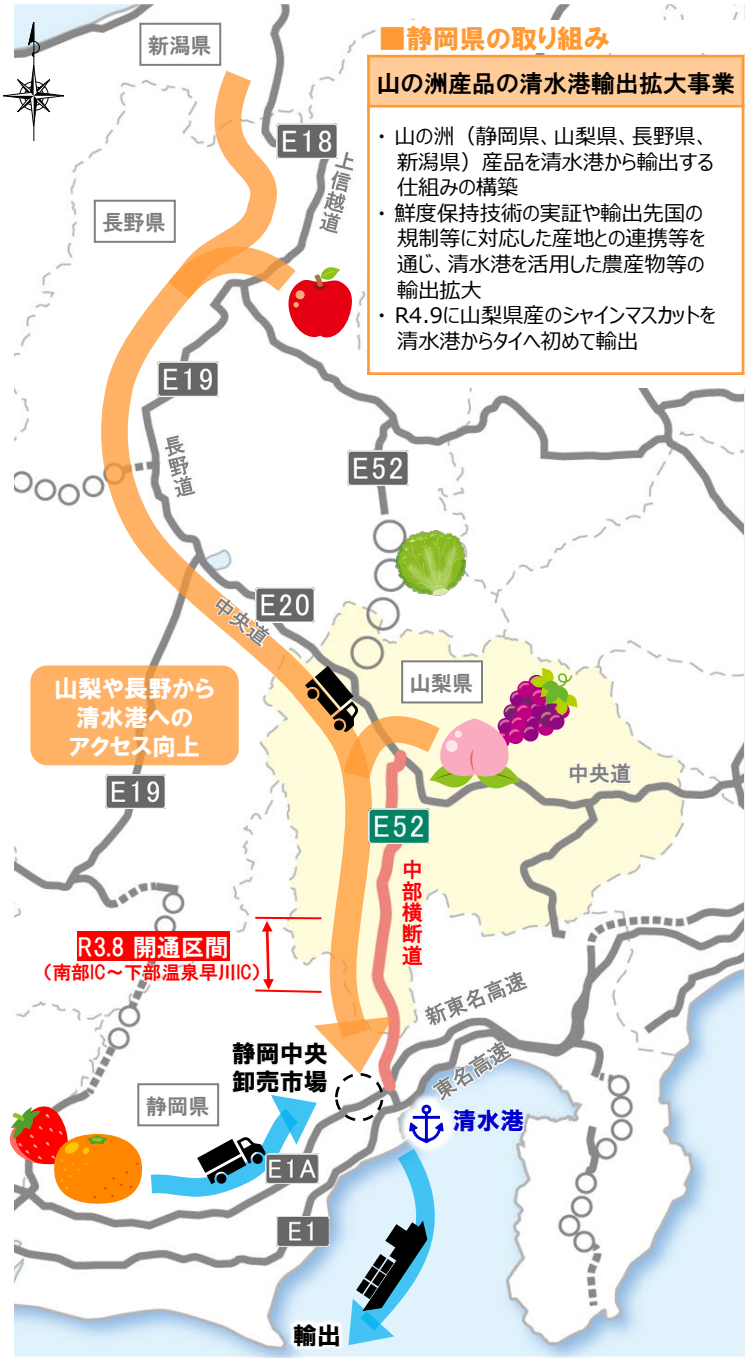
（R4.3　ヒアリング結果）

4. 清水港を活用した輸出の促進　①農産物の輸出を支えるコールドチェーンの整備

○山梨県の農産物の輸出量は拡大傾向であるが、輸送中の品質の維持が課題。
○中部横断道の整備を契機に、清水港、静岡中央卸売市場では、農産物の輸出促進を目指し、**一貫したコールドチェーン※の体制を構築**するための冷蔵施設などを整備。

※ コールドチェーン：冷凍・冷蔵といった所定の温度を維持したまま、生産から輸送・保管の流通プロセスを鎖のようにつなげる仕組み

■産地から清水港へのアクセス性向上

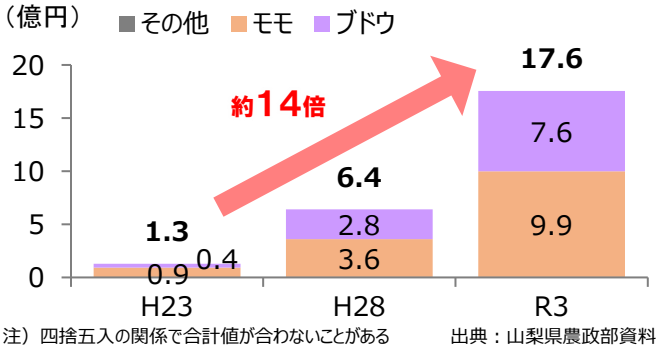


■静岡県の取り組み

山の洲産品の清水港輸出拡大事業

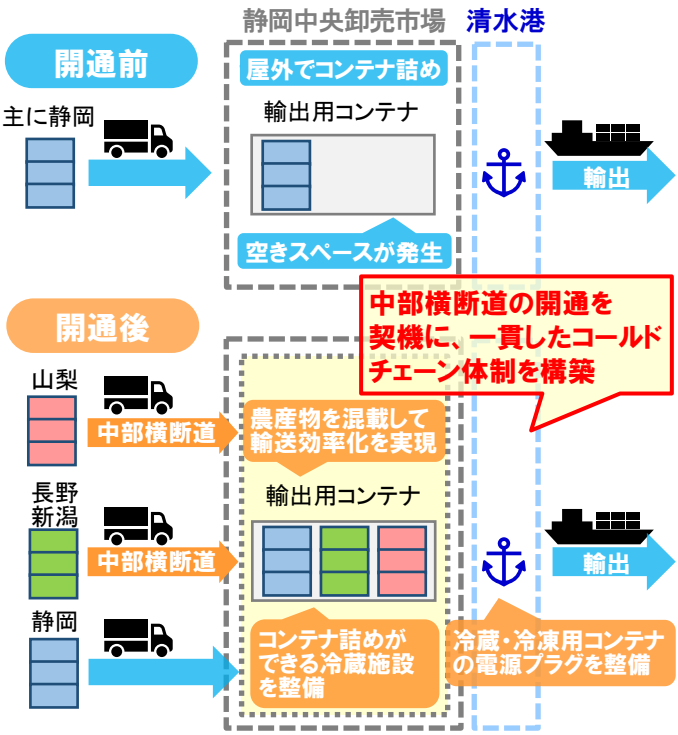
- 山の洲（静岡県、山梨県、長野県、新潟県）産品を清水港から輸出する仕組みの構築
- 鮮度保持技術の実証や輸出先国の規制等に対応した産地との連携等を通じ、清水港を活用した農産物等の輸出拡大
- R4.9に山梨県産のシャインマスカットを清水港からタイへ初めて輸出

■山梨県の農産物の輸出量



注）四捨五入の関係で合計値が合わないことがある　出典：山梨県農政部資料

■農産物の輸出促進に向けた取り組み



■コンテナ詰めができる冷蔵施設

（イメージ）

■冷蔵・冷凍用コンテナの電源プラグ

（イメージ）

■生産者（輸出事業者）の声

- シャインマスカットの生産と出荷を近隣の農家と行っています。出荷の大半は、台湾・香港・タイに向けての産地直送の輸出で、輸出量は年々増加しています。
- 中部横断道の開通で、清水港までの時間が約30分短縮。畑から輸出先まで一貫したコールドチェーンを組めるようになりました。
- 清水港からの輸出増加を見越し、耕作面積を拡大し、生産量を増加させています。

（R4.3 ヒアリング結果）

■市場卸売業者（青果物）の声

- 中部横断道の開通で山梨や長野からの輸送時間が大幅に短縮し、鮮度が良い状態で着荷してきています。
- ブドウの脱粒などのトラブルも減少しました。

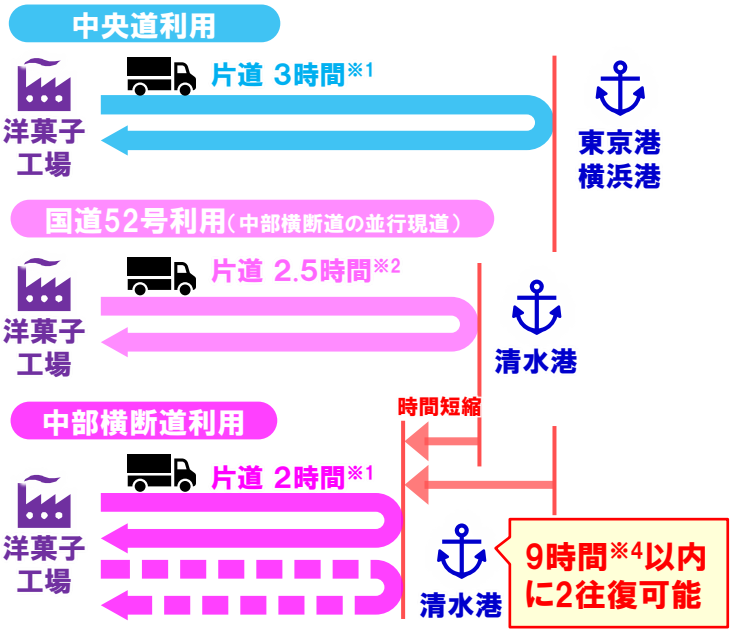
（R4.2　企業ヒアリング結果）

4. 清水港を活用した輸出の促進　②洋菓子の輸送効率の向上を支援

○山梨県の洋菓子工場は、冷凍ケーキ等の輸出量は増加傾向であり、R4年はコンテナの本数に換算すると約1,000本を輸出予定。
○輸送ルートは、東京港・横浜港経由が約7割、清水港経由が約3割。今後は、中部横断道の開通によって、**輸送効率が高まった清水港を利用した輸出拡大に期待**。

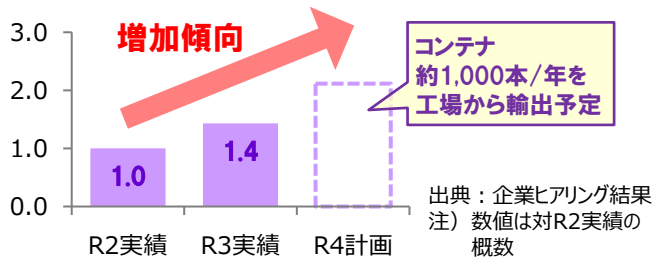
■洋菓子輸出の輸送ルートと所要時間

■清水港利用による輸送の効率化



※4『自動車運転手の労働時間等の改善のための基準』（厚生労働省）より
「1日の運転時間は2日平均で9時間が限度」

■洋菓子輸出量の推移



出典：企業ヒアリング結果
注）数値は対R2実績の概数

■洋菓子工場の声

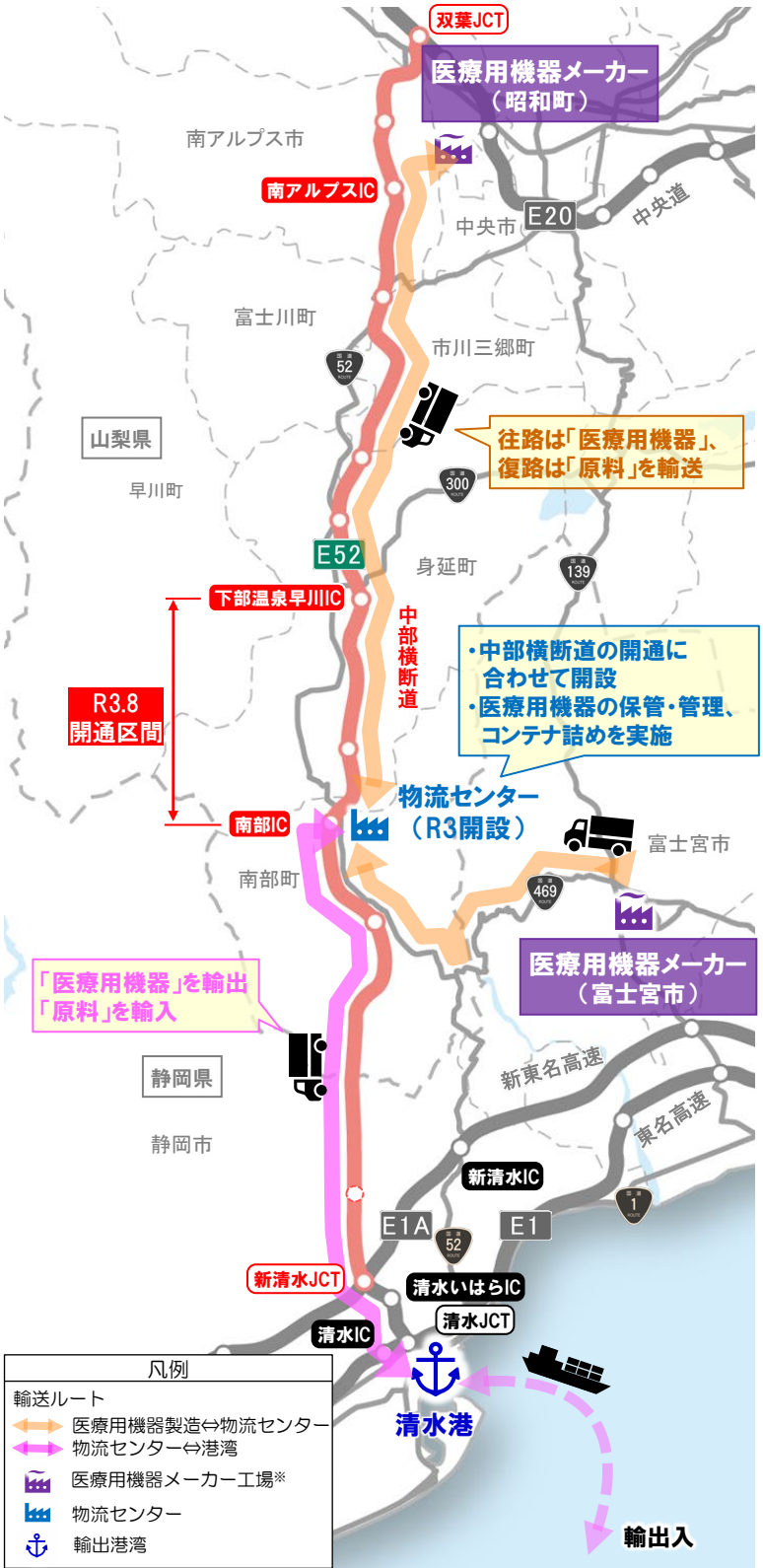
- 山梨の工場で作った商品を東京港・横浜港と清水港から海外店舗に輸出しています。
- 海外店舗は毎年増加しており、それに合わせて輸出量も増加してます。
- 中部横断道の開通で清水港へのアクセスが良くなり、計算上では1日に2往復の輸送も可能となります。

（R4.6　企業ヒアリング結果）

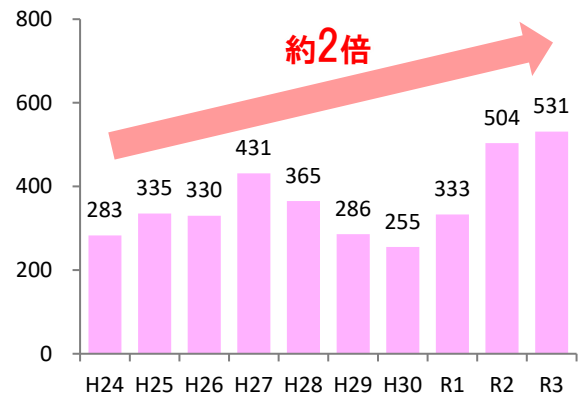
4. 清水港を活用した輸出の促進　③医療用機器の輸出支援

○山梨県と静岡県には、大手の医療用機器メーカーの工場が立地。
○**清水港からの輸出額**は、H24からR3にかけて**約2倍に増加**。
○中部横断道の開通に合わせ、中部横断道からのアクセスが良い**南部IC周辺に物流センターが開設**。
○物流センターでは、医療用機器メーカーから製品を搬入し、コンテナ詰めを行い、清水港から輸出（医療用機器の原料の輸入も実施）。今後の輸出拡大に期待。

■医療用機器輸出の物流ルート



■医療用機器の輸出額（清水税関支署）



出典：貿易統計（財務省）
集計対象：清水税関支署取扱の輸出品目（医療用又は獣医用の機器）

■物流センター（南部町）

R4.8撮影

■物流事業者（物流センター運営）の声

- 中部横断道の開通に合わせて南部IC直近に物流センターを移転・開設しました。
- 昭和町や富士宮市に工場がある大手医療機器メーカーの製品を取扱い、清水港を利用して輸出を行っています。
- 中部横断道の開通で、工場や清水港とのアクセスが良くなり、輸送の時間も読めることから、工程を管理しやすくなりました。
- 戻りのトラックでは、清水港を利用して輸入した原料を工場に運んでいます。

（R4.6　企業ヒアリング結果）

※従業者数100人以上の医療用機械器具・医療用品製造業事業所のある自治体より抽出

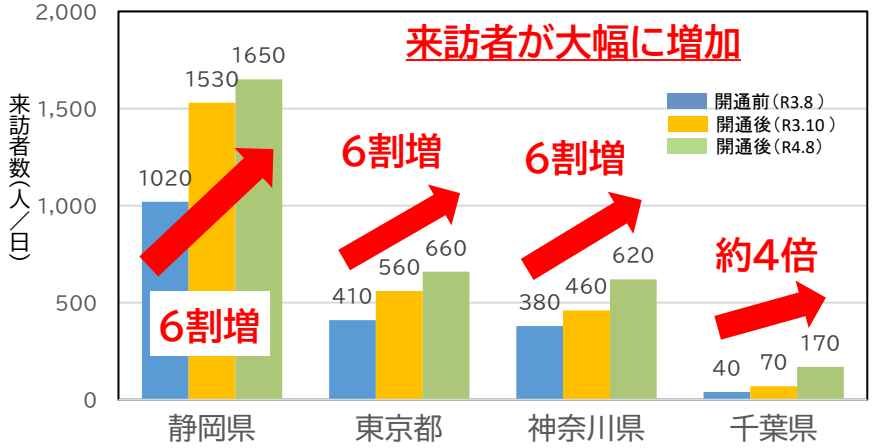
5. 観光の活性化　①全線開通により峡南地域への来訪者数が大幅に増加

○峡南地域では開通後、県外からの来訪者数が大幅に増加。
○地域内施設での購買実績が増加。

■地域への来訪者が増えるとともに、経済の好循環に寄与

峡南地域では開通後、県外からの来訪客数が大きく伸びています！

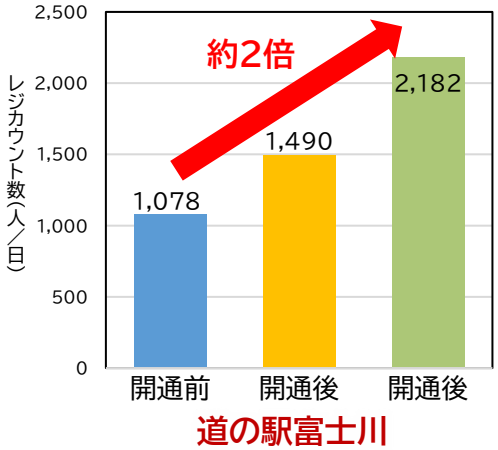
峡南主要観光地　居住地ごと来訪者数



使用データ：DS.INSIGHT（ヤフーデータソリューションの行動ビッグデータ）
峡南地域内の主要観光地が立地するメッシュを対象に来訪者（ビッグデータのサンプル数）を集計
開通前：R3.8の休日平均　開通後：R3.10、R4.8の休日平均

地域内施設での購買実績が増加！

道の駅レジ通過数



使用データ：道の駅提供のレジカウント数
開通前：R3.8の休日平均値
開通後：R3.10、R4.8の休日平均値

■中部横断自動車道開通記念シンポジウムでは、県内企業より開通効果実感の声が続出

第一回　産業・物流テーマ「つながる山梨　海と空に開かれた「開の国」へ」

【物流業】・清水港への運送時間が短縮し、船送利用増に期待！
【物流業】・大規模物流拠点を県内に建設中
【製造業】・デリケートな商品の運搬に際し安定し走りやすい！

【販売業】
・開通で商圏90分圏域のエリアが拡大！

第二回　観光テーマ「中部横断道でつなぐ地域観光の未来」

【旅行業協会】・観光の動きが活発化！観光ルートの選択肢増
【施設業】・修学旅行先としての人気が上昇中！
・災害に強い道路整備による効果大
【道の駅】・立ち寄り利用者が大幅増！
・地域の魅力発信の取組みも拡大

【宿泊業】
・開通を追い風に！
・魅力を発信する宿泊施設へ

開通効果の高い分野をテーマにリレー形式で繋ぐシンポジウムを開催

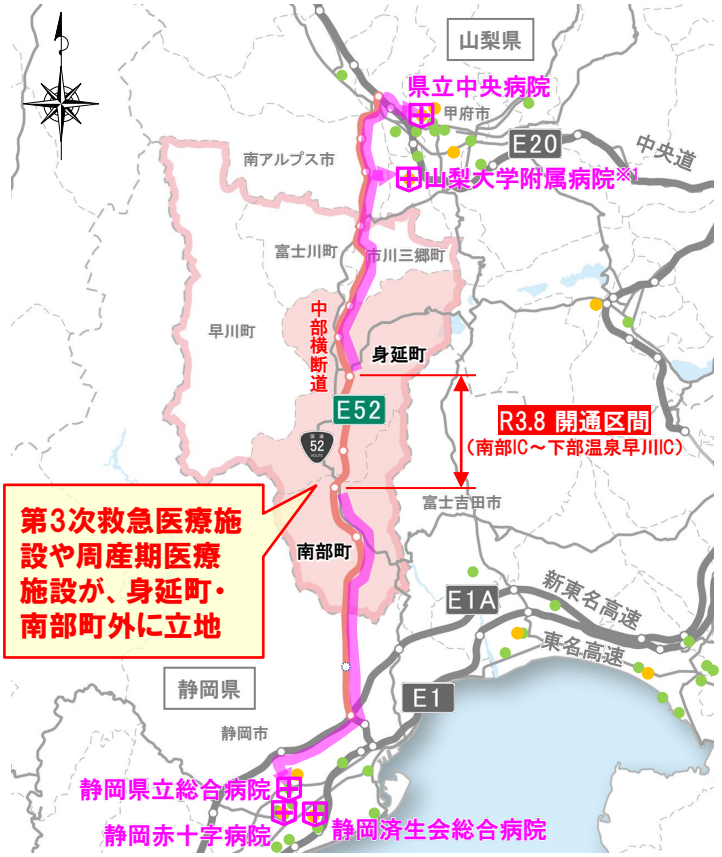
第1回　第2回　第3回　第4回
産業・物流分野　観光分野　防災・医療分野　総括

資料作成：山梨県 県土整備部 高速道路推進課

6. 救急医療支援の向上　①搬送時間の短縮による救急医療支援

○身延町・南部町内から第3次救急医療施設への救急搬送における**中部横断道の利用割合**が**約4割増加**し、**救急搬送時間**が**平均17分（約2割）短縮**。
○中部横断道の開通により、**重篤患者に対する救急医療や周産期医療を支援**。

■救急搬送ルート（身延町・南部町⇒第3次救急医療施設）



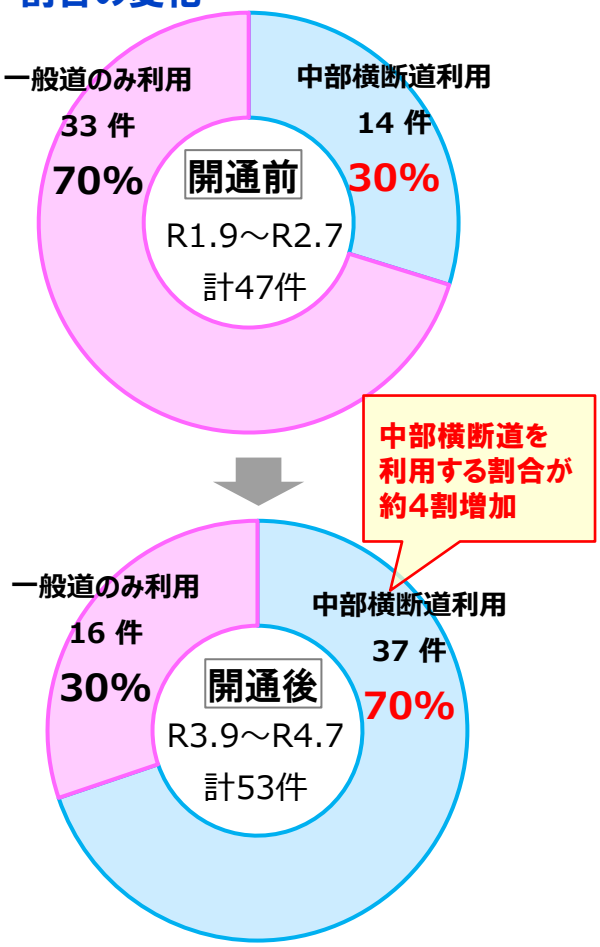
凡例
救急搬送ルート
第3次救急医療施設
NICU設置医療施設
分娩取扱医療施設
峡南消防本部管轄区域（市川三郷町、早川町、身延町、南部町、富士川町）
開通区間沿線市町村（身延町、南部町）

第3次救急医療施設：
急性心筋梗塞や脳卒中、重度の外傷・熱傷などの重症及び、複数の診療科領域にわたる重篤な救急患者を24時間体制で受け入れる施設

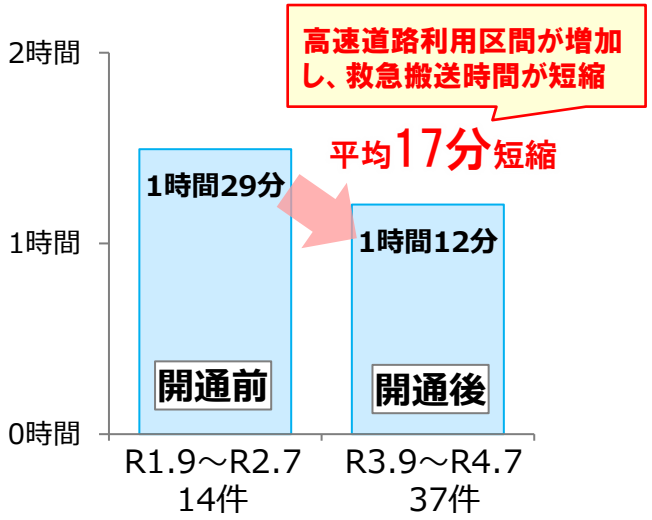
NICU（Neonatal Intensive Care Unit）：
新生児のための集中治療室で、早産児・低出生体重児をはじめとして、呼吸障害、仮死、心疾患、消化器疾患などすべての新生児疾患に24時間体制で対応する施設

※1 山梨大学附属病院も第3次救急医療施設と同様に重篤な患者の受け入れをおこなっている

■救急搬送における中部横断道利用割合の変化



■平均救急搬送時間※2



出典：峡南消防本部提供データ

（抽出条件）
・出動地区　：身延町・南部町
・搬送先病院　：県立中央病院高度救命救急センター
山梨大学附属病院救急部
静岡県立総合病院高度救命センター

※2　119番通報を受けてから病院到着までに要した時間の平均値

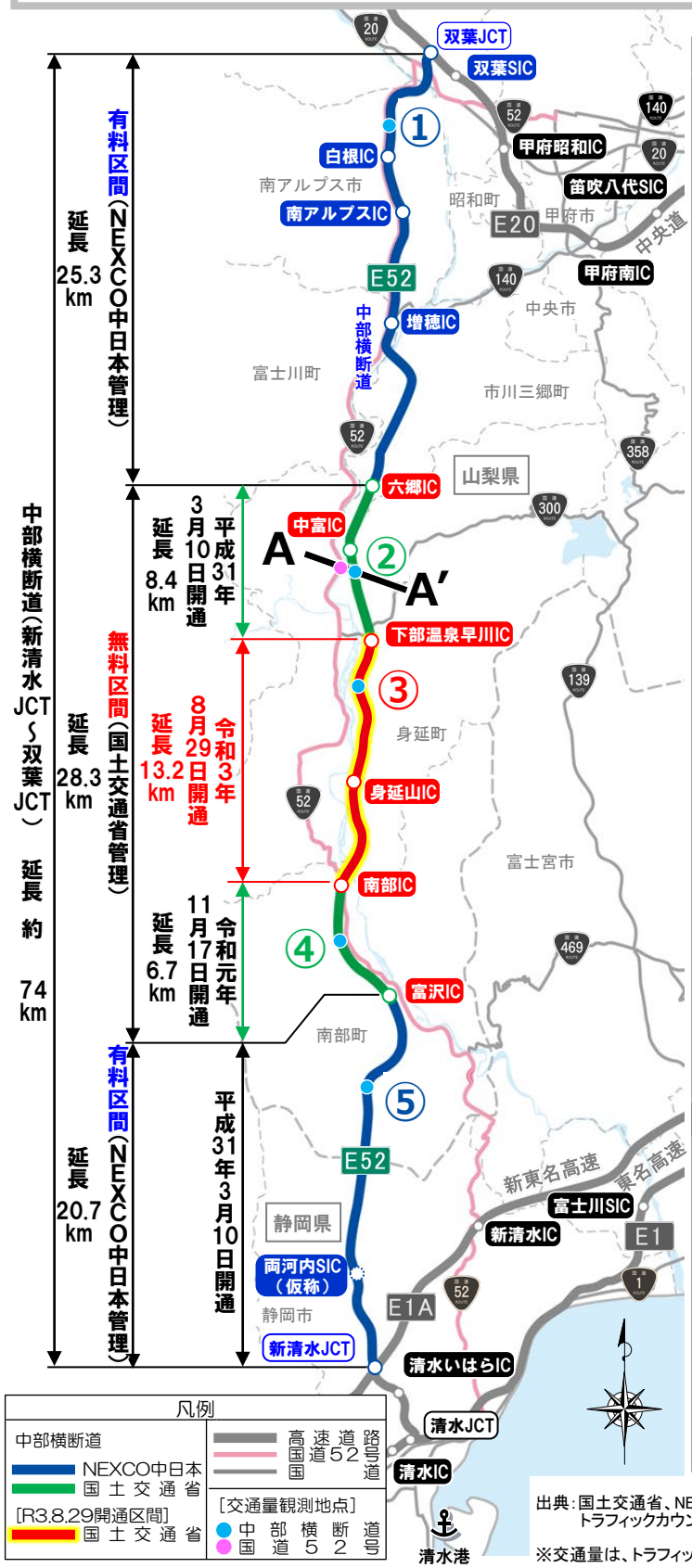
■　消防関係者の声

- 中部横断道が全線開通したことで、第3次救急医療機関への搬送時間が短縮され、安全で迅速な搬送が可能になりました。
- 直線が多い高速道路のおかげで、搬送中の課題でもあった救急車の振動、揺れが軽減され、傷病者や機関員の負担軽減にも繋がっております。
- 高速道路には信号が無く一般車両の動きも一定のため、病院までの搬送時間が把握でき、傷病者の収容や医療機関への引渡しがスムーズになったことで、救命率の向上が見込まれます。

（R4.2　消防関係者　ヒアリング結果）

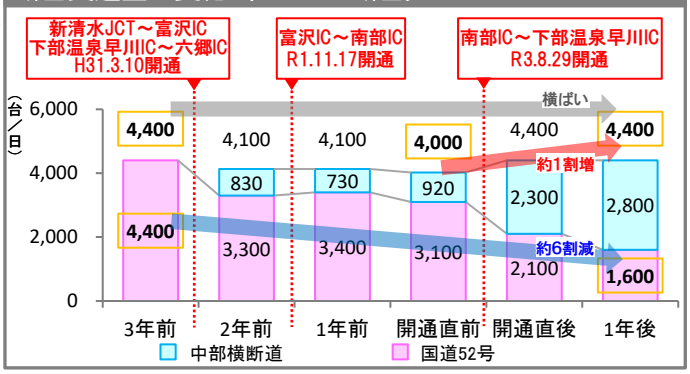
【参考】中部横断道の交通量の変化　平日・大型車

○令和３年８月に開通した**身延山IC～下部温泉早川IC**(③) の交通量は、**2,900台/日**。
○中部横断道（新清水JCT～双葉JCT）の全線開通により、中部横断道の交通量は、開通直前と比べて**最大約3倍に増加**(920台/日→2,800台/日)。
○**並行する国道52号**の交通量は、新清水JCT～六郷IC間の開通前と比べ、**約6割減少**(4,400台/日→1,600台/日)。
○中部横断道と国道52号を合計した**断面交通量**は、新清水JCT～六郷IC間の開通前と比べ、ほぼ横ばい(4,400台/日→4,400台/日）。開通直前と比べると、約1割増加（4,000台/日→4,400台/日）。



中部横断道の交通量変化

断面交通量の変化（A－A’断面）



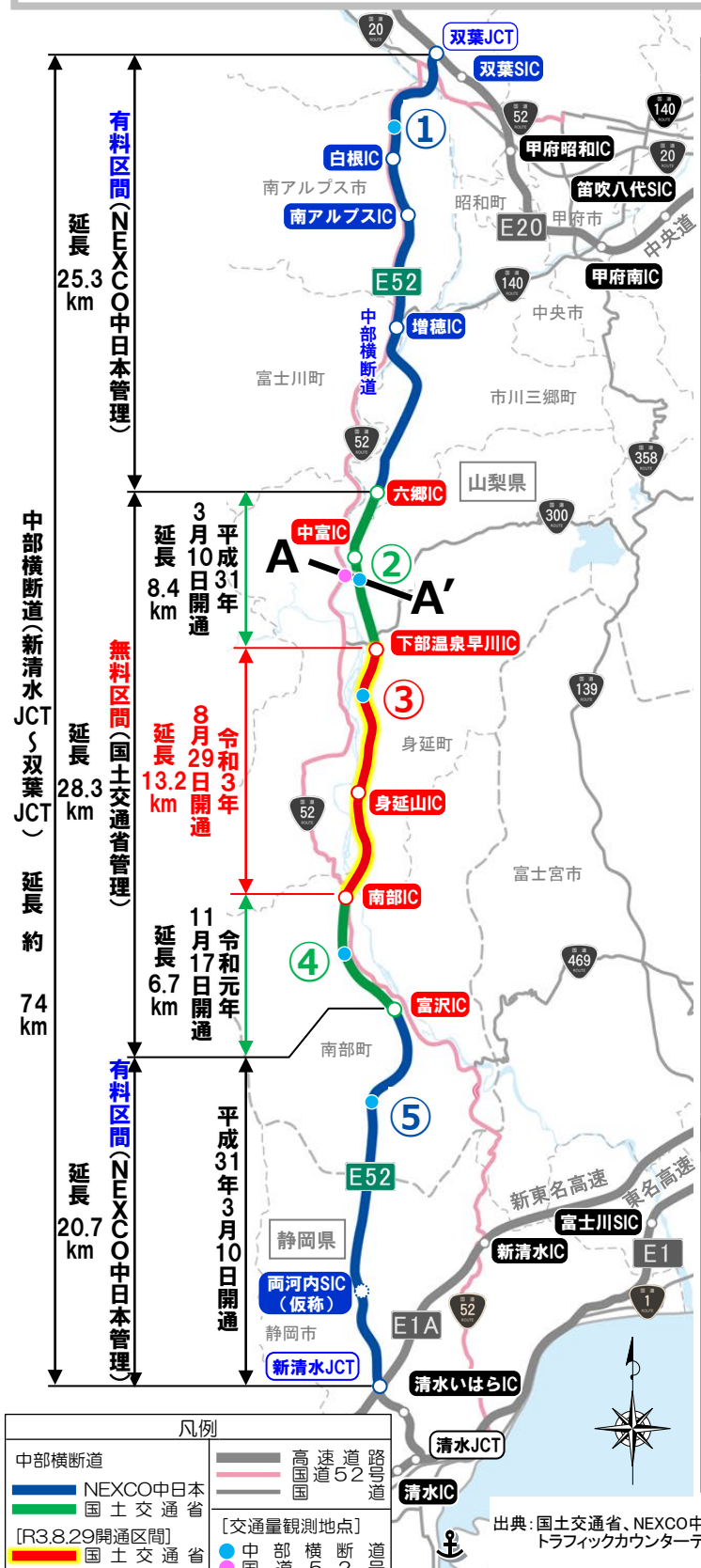
出典：国土交通省、NEXCO中日本 トラフィックカウンターデータ（速報値）

3年前：H30.9.18(火)～21(金)　開通直前：R3.7.12(月)～16(金)
2年前：R1.9.17(火)～20(金)　開通直後：R3.9.13(月)～17(金)
1年前：R2.9.14(月)～18(金)　1年後　：R4.8.1（月)～5(金)

※交通量は、トラフィックカウンターの計測値から有効数字2桁（1万台以上は3桁）で丸めた値

【参考】中部横断道の交通量の変化　土休日・全車

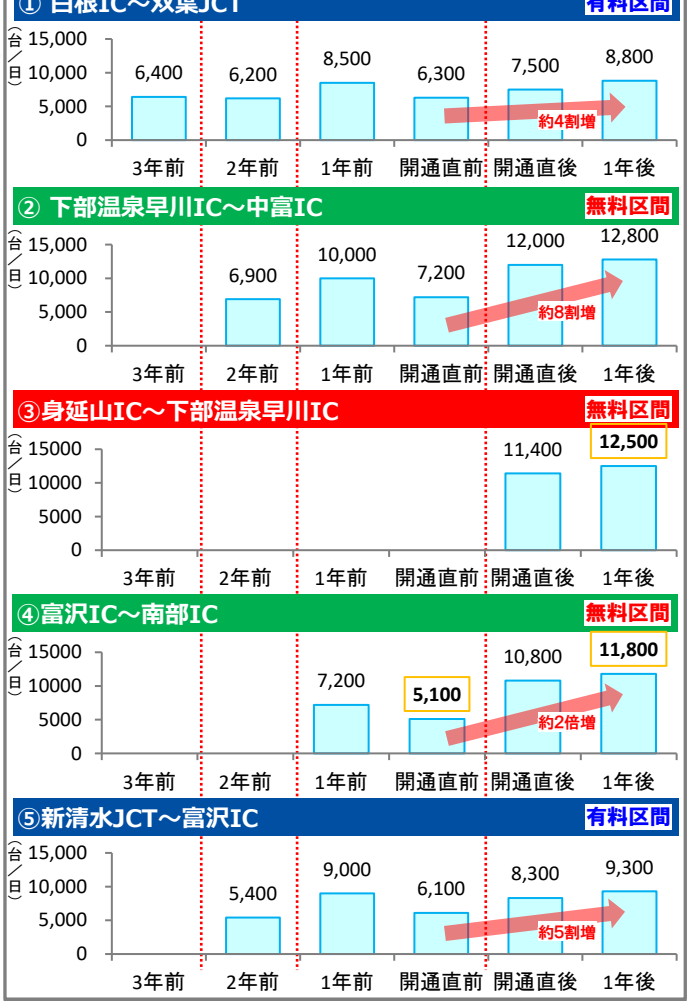
○令和３年８月に開通した**身延山IC～下部温泉早川IC**(③) の交通量は、**12,500台/日**。
○中部横断道（新清水JCT～双葉JCT）の全線開通により、中部横断道の交通量は、開通直前と比べて**最大約2倍に増加**(5,100台/日→11,800台/日)。
○**並行する国道52号**の交通量は、新清水JCT～六郷IC間の開通前と比べ、**約6割減少**(20,000台/日→9,000台/日)。
○中部横断道と国道52号を合計した**断面交通量**は、新清水JCT～六郷IC間の開通前と比べ、**約1割増加**(20,000台/日→21,700台/日) 。



凡例
- 中部横断道
  - NEXCO中日本
  - 国土交通省
  - [R3.8.29開通区間] 国土交通省
- 高速道路
- 国道52号
- 国道
- [交通量観測地点]
  - 中部横断道
  - 国道52号

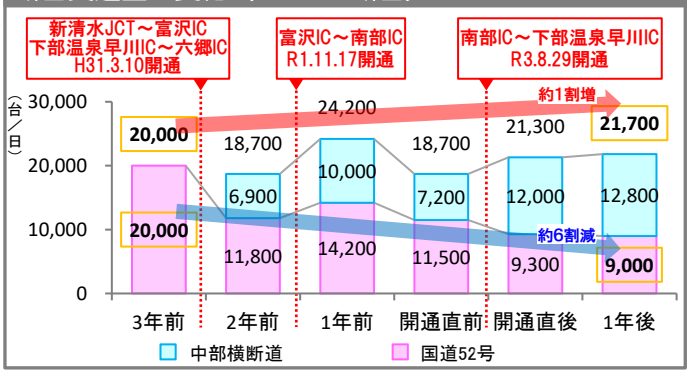
中部横断道の交通量変化

新清水JCT～富沢IC 下部温泉早川IC～六郷IC H31.3.10開通
富沢IC～南部IC R1.11.17開通
南部IC～下部温泉早川IC R3.8.29開通



断面交通量の変化（A－A’断面）

新清水JCT～富沢IC 下部温泉早川IC～六郷IC H31.3.10開通
富沢IC～南部IC R1.11.17開通
南部IC～下部温泉早川IC R3.8.29開通



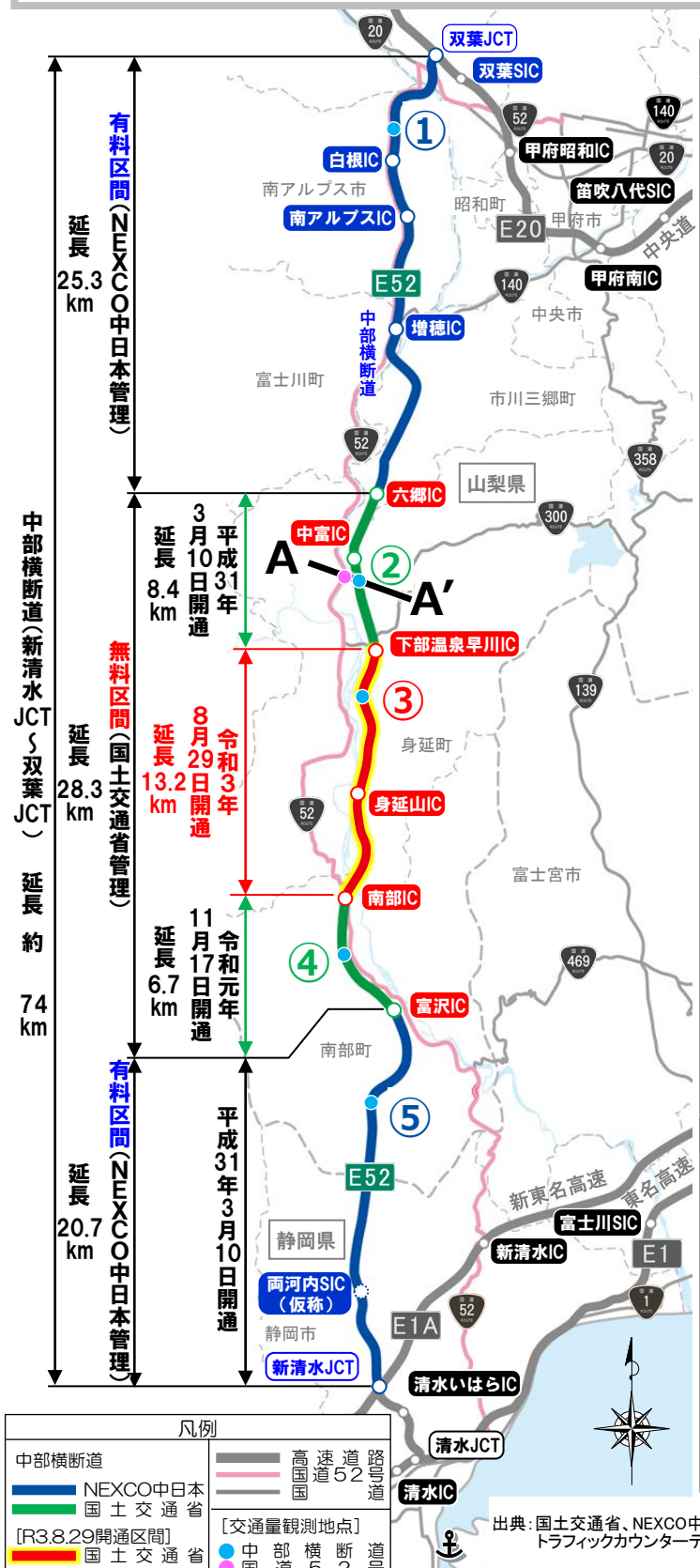
出典：国土交通省、NEXCO中日本 トラフィックカウンターデータ（速報値）

3年前：H30.9.22(土)～24(月・祝)　開通直前：R3.7.17(土)、18(日)
2年前：R1.9.21(土)～23(月・祝)　開通直後：R3.9.18(土)～20(月・祝)
1年前：R2.9.19(土)～22(火・祝)　1年後　：R4.8.6(土)、7(日)

※交通量は、トラフィックカウンターの計測値から有効数字2桁（1万台以上は3桁）で丸めた値

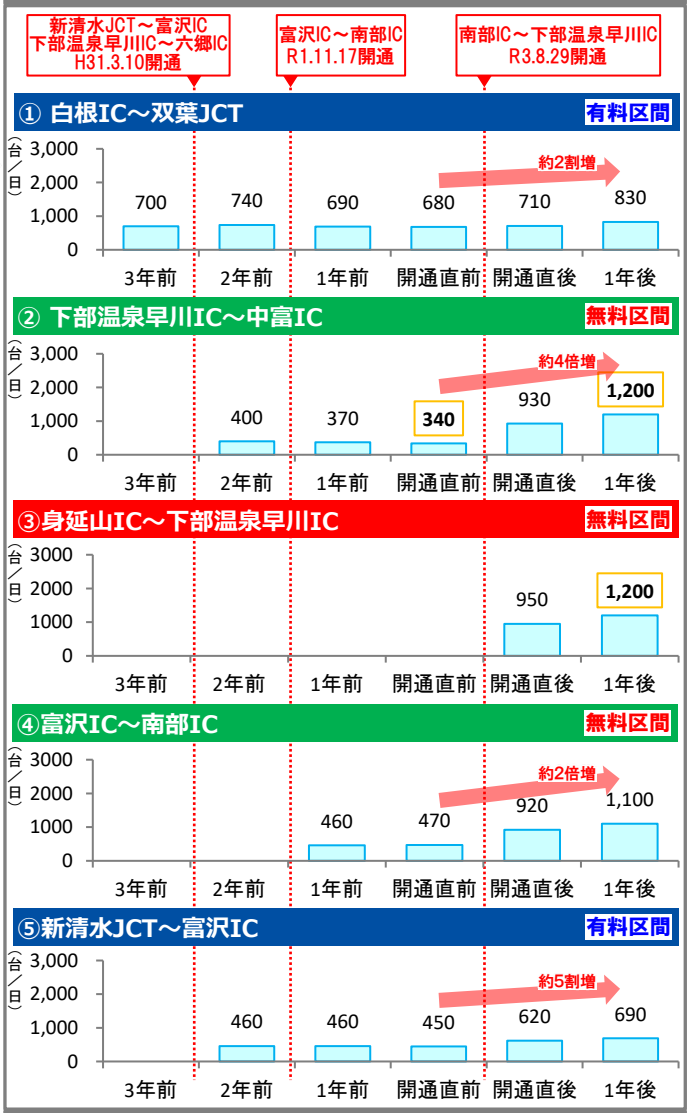
【参考】中部横断道の交通量の変化　土休日・大型車

○令和３年８月に開通した**身延山IC～下部温泉早川IC**(③) の交通量は、**1,200台/日**。
○中部横断道（新清水JCT～双葉JCT）の全線開通により、中部横断道の交通量は、開通直前と比べて**最大約4倍に増加**(340台/日→1,200台/日)。
○**並行する国道52号**の交通量は、新清水JCT～六郷IC間の開通前と比べ、**約7割減少**(2,300台/日→610台/日)。
○中部横断道と国道52号を合計した**断面交通量**は、新清水JCT～六郷IC間の開通前と比べ、**約2割減少**(2,300台/日→1,800台/日) 。開通直前と比べると、約1割増加（1,600台/日→1,800台/日）。

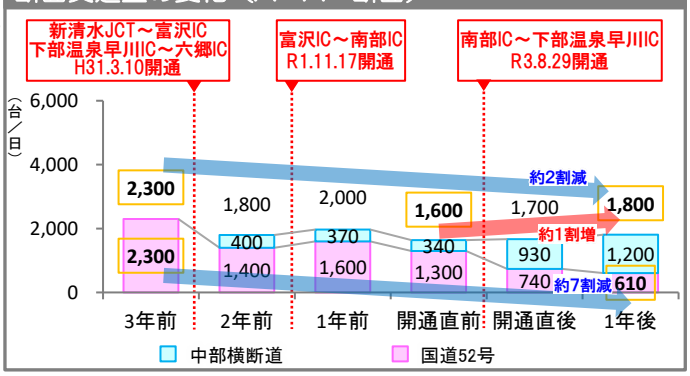


凡例
中部横断道
NEXCO中日本
国土交通省
[R3.8.29開通区間]
国土交通省
高速道路
国道52号
国道
[交通量観測地点]
中部横断道
国道52号

中部横断道の交通量変化



断面交通量の変化（A－A’断面）



出典：国土交通省、NEXCO中日本 トラフィックカウンターデータ（速報値）

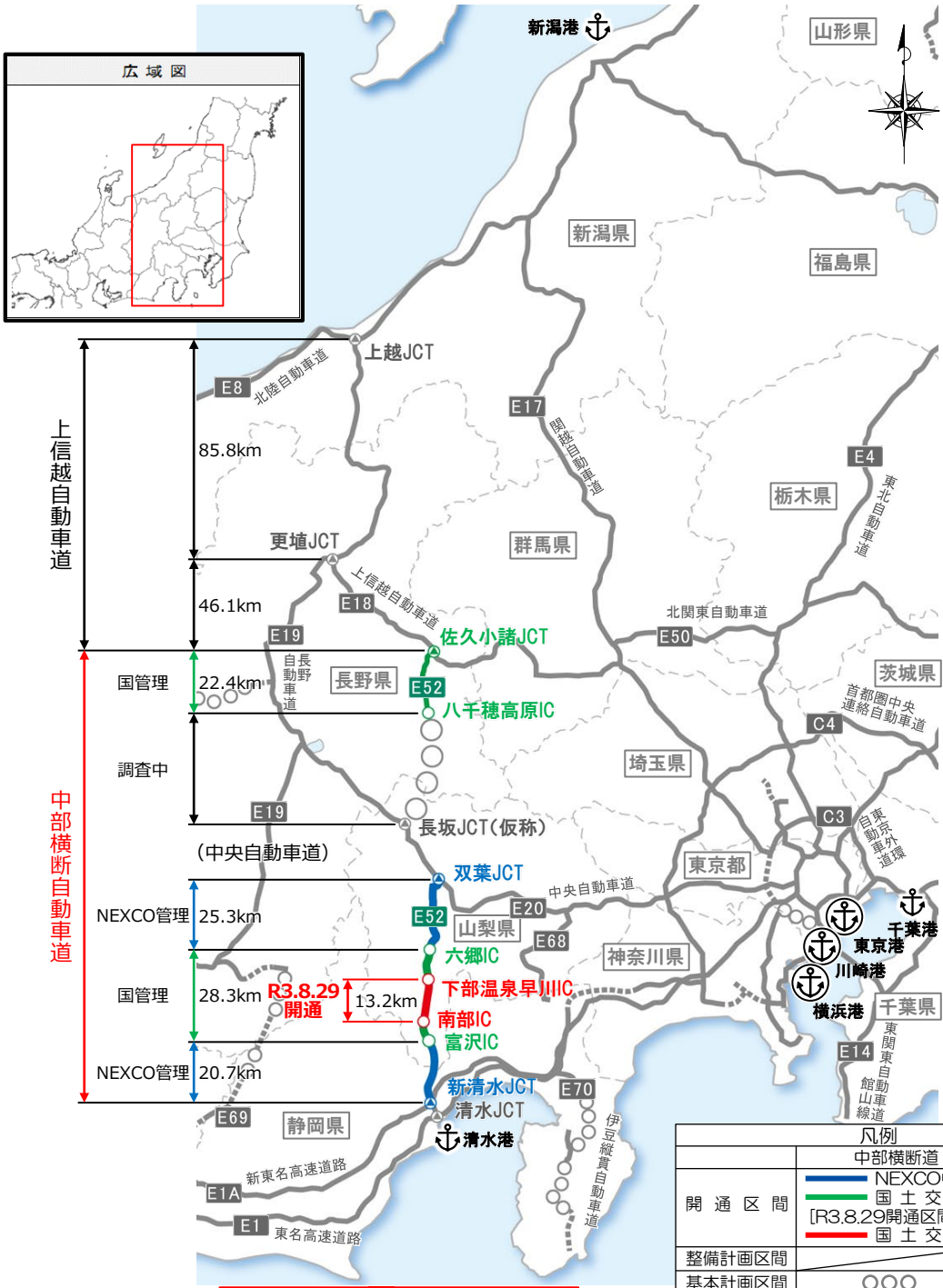
3年前：H30.9.22(土)～24(月・祝)　開通直前：R3.7.17(土)、18(日)
2年前：R1.9.21(土)～23(月・祝)　開通直後：R3.9.18(土)～20(月・祝)
1年前：R2.9.19(土)～22(火・祝)　1年後　：R4.8.6(土)、7(日)

※交通量は、トラフィックカウンターの計測値から有効数字2桁（1万台以上は3桁）で丸めた値

【参考】中部横断自動車道概要

○中部横断自動車道は、静岡県静岡市を起点に、山梨県甲斐市を経由して長野県小諸市に至る高速自動車国道です。中部横断自動車道により、新東名高速道路、中央自動車道及び上信越自動車道が接続され、周辺地域における生活、産業、観光面の活性化、水害時の交通寸断の改善、地震災害時の緊急輸送路の機能向上、高次医療施設への迅速な移動が可能となるなど、様々な効果が期待されます。

■位置図

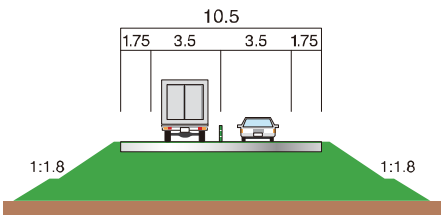


凡例	中部横断道	高速道路
開通区間	NEXCO中日本 国土交通省 [R3.8.29開通区間] 国土交通省	
整備計画区間		
基本計画区間	○○○	○○○
	国際戦略港湾	国際拠点港湾

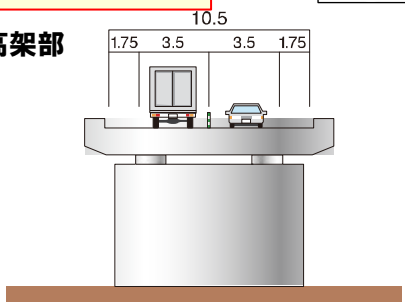
■横断面図（国管理区間）

供用区間は当面は2車線で運用

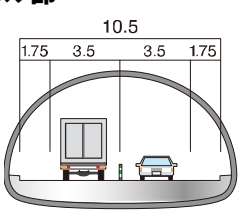
■土工部



■高架部



■トンネル部



（単位：m）